

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和 7 年度病害虫発生予報第 5 号（8 月）
令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 5 号
令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 6 号

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室
電 話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和 7 年度病害虫発生予報第 5 号（8 月）

令和 7 年 8 月 1 日
愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	県全域	7 月下旬の葉いもちの発生量は やや少ない	—
	紋枯病	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 8 月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 8 月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	やや多い	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 一部地域の予察灯における誘殺 数は多い	± +
	セジロウンカ	やや多い	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数はやや多い	± +
	トビイロウンカ	平年並	県全域	7 月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米 カメムシ類	やや多い	県全域	7月下旬の本田での発生量はやや多い 7月下旬の水田畦畔での発生量はやや多い 予察灯における誘殺数はやや多い	＋ ＋ ＋
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	－ ±
	コブノメイガ	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

〔イネ・ニカメイガ〕

弥富市に設置した予察灯では、7月中旬頃から誘殺数が増加しています。今後の発生状況に注意してください。防除対策は7月10日発表の「ニカメイガ情報第1号（水稻）」を参照してください。

〔イネ・セジロウンカ〕

セジロウンカについて、7月下旬の巡回調査では発生量は平年並でしたが、一部地域の予察灯で誘殺数が多いところがあります。今後の発生状況に注意してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

本日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」及び7月16日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第2号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参照してください。

・留意事項

トビイロウンカについて、7月下旬までの本田調査及び予察灯において確認されていませんが、本県に飛来している可能性があります。ほ場に入って株元をよく観察するなど、発生状況に注意してください。

ダイズについて、西尾市に設置したトラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数は多い状況です。本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや少ない	県全域	5月の枯枝の胞子形成量はやや少ない 8月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	ナシヒメシクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	＋
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	＋
	カキノヘタムシガ	やや少ない	県全域	第1世代幼虫による被害果率はやや少ない	－
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い (早い)	県全域	7月下旬のヒノキ球果量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	± ＋

・防除対策

〔ナシ・ハダニ類〕

多発しているほ場が確認されています。コロマイト水和剤などで防除しましょう。

〔ナシ・ナシヒメシクイ〕

ディアナWDGやエクシレルSEなどで防除しましょう。

〔カキ・うどんこ病〕

多発しているほ場が確認されています。ナリアWDGなどで防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

本日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。

・留意事項

モモ園でクビアカツヤカミキリが確認されています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期です。果樹園（特にモモ）で成虫を確認したら、直ちに捕殺し、農業総合試験場病

害虫防除室もしくは最寄りの農林水産事務所農業改良普及課に連絡をお願いします。詳細は、7月2日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考にしてください。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第4世代	7/21	7/24	7/17	7/19	7/21	7/22	7/21	7/21	7/24	7/21	第3世代	7/26
第5世代	8/6	8/9	8/3	8/5	8/7	8/7	8/6	8/6	8/10	8/6	第4世代	8/14
(前年)	8/9	8/8	8/4	8/6	8/10	8/9	8/6	8/5	8/10	8/5	(前年)	8/14
前年差	3日早	1日遅	1日早	1日早	3日早	2日早	±0	1日遅	±0	1日遅	前年差	±0
第6世代	8/22	8/25	8/18	8/21	8/23	8/23	8/22	8/22	8/26	8/22	第5世代	9/3

各地のアメダス平均気温から予測。8月1日までは実測値を、それ以降は平年値に+1.6℃補正した値を用いて計算。補正値は気象庁発表の向こう1か月の気温予測データを参考にした。

前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	シロイチモジヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
イチゴ	炭疽病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

〔キャベツ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第2号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参照してください。

〔キャベツ・シロイチモジヨトウ〕

本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

〔イチゴ・炭疽病〕

育苗期間はアントラコール顆粒水和剤やベルコートフロアブルなどを用いて予防的防除を行いましょう。発病株はすみやかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。発病株の周辺にある株に病徴が無い場合でも同様に抜き取り処分しましょう。なお、親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナーと子株も同様に処分しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

・留意事項

キャベツの**コナガ**、**ハイマダラノメイガ**は、今後発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、**コナジラミ類**の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある薬剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に黒色防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置しましょう。

トマト**キバガ**が複数地点のフェロモントラップで継続的に誘殺されています。適用のある薬剤を施用するとともに、侵入防止に努めましょう。被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し寄生した成幼虫を全て死滅させたいので、適切に処分しましょう。ほ場で本虫を初確認した場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。発生状況や防除対策の詳細は、7月16日発表の「トマトキバガ情報第1号（トマト）」を参考にしてください。

イチゴの育苗ほでの**ハダニ類**の発生は平年並ですが、ほ場による差が大きい状況です。今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。定植直前は、炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）及びモメントフロアブルによる灌注処理を行い、本ほにハダニ類を持ち込まないよう防除を徹底しましょう。また、サフオイル乳剤などによる苗浸漬処理を行う場合は、薬害を生じさせないために、高温時の使用は避け、薬液は処理直前に十分に攪拌させてから使用しましょう。処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	＋ ＋
	ハダニ類	平年並	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の気温は高い	－ ＋

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第2号（ダイズ、野菜類、花き類）」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：
<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

東海地方 1 か月予報（名古屋地方気象台 7 月 31 日発表）

〈予想される向こう 1 か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 7 0 % です。

週別の気温は、1 週目は高い確率 8 0 % です。2 週目は、高い確率 5 0 % です。

3 ～ 4 週目は、高い確率 6 0 % です。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：1 0 % 平年並：2 0 % 高 い：7 0 %

〔降 水 量〕 少ない：3 0 % 平年並：4 0 % 多 い：3 0 %

〔日照時間〕 少ない：3 0 % 平年並：3 0 % 多 い：4 0 %